

巡回相談心理士の助言・態度について

それぞれ心理士の助言、態度が、巡回相談業務において、適切であれば○、不適切であれば×と回答してください。4月18日の連絡会において、解説します。

1	授業が始まって目に入ったものが気になり、教室を立ち歩き、教員の話聞く事が難しい小学校1年生男子を観察し、助言を行った。「本児童は注目すべき場所、周囲が注視している場所を見つけにくいと思う。音読を始める際に、『ここ』と読むタイミングに合わせて教科書のその箇所を指さすと対応しやすくなると思う。机間巡視をしながら対応できるときに試みてほしい。また、本児が床に座っている時に、『座ってね』と指示していたが、児童は自席の椅子に移動せず、そのまま床に座っていた。もしかすると、児童はすでに床に座っているので動く必要はないと理解したかもしれない。『ノートに書くから自分の椅子に座ってね』とより詳しく伝えると、応じやすくなると思う。」と伝えた。
2	「小学校5年生の児童。担任の指示に応じず、授業中に参加しない。これまでいろいろ試みてきたが、効果がない。どのようにしたらいいのか、教えてほしい」という相談が担任からあった。国語の授業の様子を観察すると、漢字の書き取りが指示されていたが、対象児童は、自席に座っているものの、タブレット端末でゲームをして過ごしていた。このため、「タブレット端末の使い方のルールを徹底する」と助言した。
3	心理士として特別支援教室を利用している児童・生徒に対する評価に配慮してほしいと常々考えている。「特別支援教室を利用している児童・生徒に対しては、通知表の評価は、指導目標に沿ったものに変えたほうがよい。漢字テストにおいては、読みや書きではなく、同音異義語から選択させるなど、別問題を作成し、評価を行うべき」と助言をした。
4	小学校5年生の児童について、在籍学級での対応について相談を受けた。行動観察をすると、指示に応じにくい、落ち着きがない、など、発達障害の特徴がみられた。そこで、「特別支援教室を利用するとよい」と助言した。
5	6時間の業務の中で、4クラス10人くらいの行動観察を行っている。放課後の時間帯に、一クラス15分程度、担任とのコンサルテーションが予定されているが、担任からの質問に丁寧に応じていると、3人目、4人目は予定時間を超過してしまうこともあったが、教員の求めに応じて対応した。